

オープンキャンパス 2019【音楽教育教室企画】のご案内

8月10日(土)午後1~4時まで、教育学部音楽棟にてオープンキャンパス「音楽教育教室企画」を開催します。3時間をとおして参加する(もちろん休憩時間はあります)こともできますし、第1部(1時~2時20分)、第2部(2時半~3時50分)のいずれかへの参加でもかまいません。もちろん出入りは原則自由です。予定している内容は次のとおりです。なお、カリキュラムについては、教育学部・音楽教育教室HPをご参照ください。

◎公開レッスン(声楽・ピアノ)

声楽学習においては、まず歌声の仕組みについて理解を深めます。どのようなプロセスを経て声は出てくるのでしょうか?響く声とはどんな声でしょうか?基礎的な知識を身につけることによって、自らの声の特性をよく知ることにつながり、各々の声がどこに進むべきか学習の目標を定めることができます。また声楽発声を学ぶにあたっては、呼吸、発音、共鳴のコントロールが必須で、身体を最大限に使うことが求められます。発声について身につけた知識を、いかにして実践していくかがポイントになります。そして、古典的な作品を通して、柔軟な表現を可能にする歌声と、音楽を深く読み解く感受性とを育てていきます。

今回の公開レッスンでは、声楽初学者の教材として広く普及しているパリゾッティ編「イタリア古典歌曲集」を取り上げます。発声や発音に関する技術と作品の様式にあった曲想、またそれを表現するための方法について学んでいきます。(文責:白岩洵)



「楽譜を読む」ということ、これは単に、音、リズム、強弱、アーティキュレーションなど、譜面上に書かれてあることを見逃さずに読み取るだけではありません。そこから作曲者が何を伝えたいのか、或いは何を感じ取ってほしいのかということを読み取るのが重要で、それを音で表現していくことが「演奏」につながります。そして演奏に際しては、柔軟に身体を使いながら、奏でた音を身体で聴くことが求められます。レッスンにおいては、手首・腕など身体の使い方など再度基礎を見つめ直すことから始めています。

公開レッスンでは、ベートーヴェンの《悲愴》ソナタの第3楽章を取り上げます。宿命に立ち向かおうとする情熱のような強いエネルギーに溢れ、様々な主題を出現させる構成が結実している作品です。細かなアーティキュレーションと息の長いフレーズをどのように表現していくか、その一端をご覧ください。ご感想をいただきたいと思います。(文責:友清祐子)

◎合唱体験

変声期（特に男子!）は急に声が低くなる中学生の時期に始まると捉えられがちですが、実は小学校高学年で変声期第一段階（初期）の例が多く見られ、大学生くらいの年齢で安定します。したがって、大学の授業では、小・中・高校とはひと味違った合唱の響きを体験することができます。さあ、あなたも大学生と一緒に合唱を体験しませんか。

今年度の合唱曲は、混声四部合唱「春に（谷川俊太郎/作詩 木下牧子/作曲）」です。楽譜はこちらで準備しますので、気軽に参加してくださいね。

【第1部】パート練習では「正確な譜読み」を中心に練習します。アンサンブルでは伸び伸びと声を出して、合唱する喜びを味わいましょう。

【第2部】パート練習では「音楽記号と旋律や歌詞との関係」「パートの役割」等を話し合いながら、練習します。アンサンブルではより音楽的な表現をめざして、合唱しましょう。

（文責：高橋雅子）



◎演奏発表

二重唱、ピアノ独奏、ピアノ連弾、管楽二重奏

◎座談会



みなさんのお越しを

お待ちしております！

お問い合わせは下記メールアドレス（斎藤）までお願いいたします。

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

「山大音研」で検索すると、当教室のHPをご覧いただけます。

なお、悪天候などによるオープンキャンパス中止や延期に関する情報は大学HPでご確認下さい。

私が山口大学音楽教育教室（通称・音研）に入学して良かったと感じることは、教員を目指すための講義と、音楽への学びを深めるための講義の双方が充実している点です。現職の教員の方々との座談会や、グループワーク、模擬授業、教育実習等を通じて教員としての資質・能力を磨きながらも、専攻楽器の実技は勿論、独唱や合唱、和楽器、音楽史、ソルフェージュ等々、音楽についても幅広く学ぶことができ、その全てが私にとってかけがえのない経験となっています。練習室があるため、下宿先で楽器の練習が出来ない方も安心です。

オープンキャンパスでは、公開レッスンや公開演奏の他に座談会も開催され、皆さんの疑問や不安を直接学生にぶつけることが出来る機会となっておりますので、是非お越しください。（文責：音楽教育教室3年 斉藤 慎也）